



天神社(別名天満宮)九州の大宰府と京都の天満宮が元祖(本社)祭神:菅原道真公
旧社格は、無格社でお天神様といわれた学問の神様

創建時、元禄 9 年(1696)は、現在より 2 倍有余もある大きな社殿で、隣には秋葉社があり、現在地に併設されていたが、文政7年(1824)老朽化し、損傷が甚だしくなったため、学問を探究する近隣の篤学者やその子弟の方々が相計り、学問の神様として崇敬の念から「文教奨励」・「普及拡大」のため、寄進金を集め、写真のように社殿を小さくして浄財のみで再建したものとされている。

再建後、23 年経過した弘化 4 年(1847)、善光寺大地震にともなう犀川の決壊により、川中島平も大洪水の被害を受け、天神社はじめ北原神社共に貴重な宝物・文献類などを多数流失した。

社殿は、長年の風雨雪などにより老朽化し、損傷、特に側壁・張板などひどくいたみ、改修が必要となっていたが、世相の動向により改修に至らなかった。

これらの現状から、「祖先伝来の尊い史跡・文化財であり、学問の神様であるから、その維持保全をして後世に継承しよう」との北原区の信徒総代はじめ区民の皆様の崇高な心によって、ようやく改修の気運が高まり、多年の懸案であった天満宮の全面改修と鳥居の新設工事が、平成 14 年 10 月の秋祭り以後急速に話題となった。翌年(平成 15 年)新春の 3 月 8 日に改修実行委員会が設立され、北原区や地域・近隣関係各事業所などの尊い寄進金と、北原区の助成金により、同年 8 月末日立派に竣工完成された。完成に伴い、同年 9 月 7 日「天満宮落成竣工祝賀式」が区を挙げて盛大に行われた(なお当日は、45 年ぶりに稚児行列が区内を巡行した)。

(出典：川中島町北原区の「ふるさと歴史探訪」P.P.76-80 より一部抜粋)